

## 携帯電話機の必需財化

モバイル端末市場の  
これまでの流れ

まず、モバイル端末で日常生活に欠かせない「携帯電話機」について考えてみる。内閣府「消費動向調査」(2010年3月時点)によると、携帯電話機の世帯普及率は92.4%で、テレビの世帯普及率に迫る数字である。携帯電話機がここまで必需財化した理由は、携帯電話機が通話やメールなどの機能以上に、人と人をつなげる、つまりソーシャル性が高い端末だからである。

さらに、アップル社のiPhoneが、携帯電話機の直観的なユーザーインターフェイスを高め、また、「twitter」に代表されるソーシャル・メディアとの相互作用により、携帯電話機のソーシャル性に拍車をかけた。

## モバイル端末の細分化

消費者のライフスタイル・嗜好によって変わる端末

モバイル端末は、スマートフォンや電子書籍リーダーの出現により、さらに細分化されている。例えば、電子書籍に関して、「電子書籍端末」の代表格であるKindleと、「タブレット型製品」の代表格であるiPadとの比較がメディアでもよく取り上げられた。しかし、電子書籍は、ケータイ小説のように携帯電話機でも読めるし、スマートフォンでも専用アプリをダウンロードすれば、閲覧可能だ。つまり、電子書籍リーダーひとつを取っても、消費者は自身のライフスタイルや嗜好に合わせて多くの端末の中から選択できる環境下にある。

こうしたモバイル端末の細分化により、サービスの進化はWebサービスやソフトウェアにも移りつつある。

## コミュニケーションにおけるリアルタイム化の加速

「時間軸」を共有したい  
消費者ニーズ

インターネットは従来、時間軸をなくす「非リアルタイム」の通信技術を利用しているが、

Ustreamやtwitterに代表されるリアルタイム性の強いWebサービス(以下、リアルタイム・ウェブ)は、サーバーとクライアントの間を接続し続けるアプリケーションを使い、技術的にリアルタイム性を実現している。

これらのサービスは、現在、消費者同士のコミュニケーションツールとしてだけでなく、企業のIR/戦略広報/販促活動やセミナー/フォーラムにおける実況中継ツールとして、ごく当たり前に活用されている。さらに、そのサービスの特徴である双方向性を生かし、視聴者側はリアルタイム映像を見ながら感想を投稿したり、ほかの視聴者の感想を読むことができる。一方、配信者側も配信中に視聴者からコメントを募集したり、それに即座に反応することも可能となった。

また、リアルタイム性の消費者ニーズの高まりを受けて、ブログ/動画/SNSの従来のコミュニケーション・サービスは、リアルタイム性を加速するような機能も追加されてきている(図参照)。動画投稿サイトの最大手であるYouTubeも、本格的にライブストリーミング機能の追加を検討しているといわれている。

電通  
メディア  
インサイト  
メモ

06

## リアルタイム性が強まるWebサービスと モバイル端末環境の変化

昨今のモバイル端末とWebサービスの進化により、消費者間や企業との間でいかなる場所でも「時間軸」を共有することが簡単になった。今回は、高性能化し細分化されつつあるモバイル端末と、リアルタイム性が強まるWebサービスの現状に迫る。

文●長野晋也

Nagano Shinya

MCプランニング局メディアイノベーション研究部メディア・リサーチャー

## リアルタイム・ウェブを 活用した コミュニケーション展開

消費者ニーズに合わせた  
メディア間の連携

今後のWebサービスにおいて、時代のトレンドとはいえ、リアルタイム・ウェブのみが生き残るというわけではない。というのも、消費者は、自分が視聴したい時に視聴できる「タイムシフト視聴」を生活に取り入れたように、リア

ルタイム性と非リアルタイム性の両サービスを活用したいからである。つまり、両サービスは消費者にとってカニバることはなく(利用時間のカニバリは想定されるが)、サービス自体は形を変えながらも共存していくと考えられる。

一方、Web以外の既存メディアにとっても、これらのWebサービスは活用次第でお互いを活性化すると考える。例えば、昨年、米ABCが某音楽賞の放送前に、アーティストが会場入りする様子をUstream配信したところ、約210万人が視聴し、テレビ放送の視聴者数も前年より約200万人増えた。国内

でも、サッカーW杯の試合中におけるtwitter上のツイート数が爆発的に伸びた状況からも、リアルタイム性、双方向性が求められているのは間違いない。

よって、リアルタイム・ウェブとマスメディアの連携は、Ustreamを活用したテレビ番組等の実験的なフェーズから、消費者が本当に面白いと感じ、両サービスを自然に活用してもらおうべきフェーズに移りつつあるのではないだろうか。



〔図〕 時間軸が異なるWEBサービス

